

中部人懇通信 No.3

教育行政
対象

平成26年8月26日（火）に、倉吉体育文化会館で教育行政担当者を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を紹介します。

講演 「小地域懇談会の取組について」

江府町人権教育推進員

谷田 美和さん

鳥取県人権教育アドバイザー

加持谷典範さん

《江府町の取組》

- 平成24年度からの3か年計画としてあらかじめテーマを決めた。この3年間のテーマは「災害と人権」、「情報化社会とインターネット」、「身のまわりの人権」である。
- 啓発資料として「あかるいこころ」を作成し、全戸配布している。そこには、年間テーマに関する資料を掲載している。小地域懇談会でもその資料を活用するよう努めている。
- 「あかるいこころ」の編集委員は10名。メンバーは同推協、部落解放同盟、小中学校人権教育主任、保育園長など。委員会を計5回開催し、完成させた。
- 懇談会に参加してよかったという回答が約80%あった。「同じ集落の人と話すことができてよかった」、「久しぶりに顔を見ることができた」など小地域懇談会がコミュニケーションの場になっていることが分かった。しかし、「テーマが地域の実態や参加対象者に合っていない」、「自分事として考えてもらえない」という課題もあった。



《加持谷典範さんの助言より》

- 小地域懇談会は、何のために必要か考えてみる。目指すところは「地域づくり」である。また、仲間づくりの場にしてほしい。
- 私たちは参加している人たちをもっと大事にするべきだ。参加者が研修会の良さや必要性を宣伝してくれることもある。来ている人が満足する研修会にしていくことが大切。マンネリ化を感じている参加者は、前と同じことをしていると思い込んでいることが多い。担当者は手法を変えながら取り組んでいる。参加者に、研修のねらいを伝えよう。



【参加者の感想より】

- 加持谷さんの「参加者を大事にしてほしい」という言葉に、はっとした。私は、参加していない人の方を気にしていたが、会の内容を充実させれば自ずと参加者は増えていくと思う。
- とりあえず人を集めるという手段を使ってしまう地区もあるのではないかと。地域づくりや人間関係づくりの視点なしにテーマを設定してはいけないと思った。
- 今日のように話しやすい雰囲気作りに努めていくことが大切だと分かった。参加率も大事だが、なぜ開催するのか目的を見失ってはいけないと思う。



【まとめ】

江府町では、中期的なテーマと学習教材づくりによって地域住民にも課題が見える工夫をしておられました。各市町で人権に関する研修会は各地域で盛んに行われていますが、テーマの選定や学習教材の提供、学習支援者の育成・確保が課題となっていました。加持谷先生から、「懇談会の目的は地域づくりである」という話を聞きました。人権学習をとおして地域の人間関係が作られ、「地域づくり」が進むような事業計画を立てていくことが大切だと思いました。